



鉄人寄席誌上ライブ ビジネスパーソンのための 「新お金管理術」

講演：竹川 美奈子 氏
レポーター：佐藤 安彦

(2018年8月4日に開催場所:ヒューリックカンファレンスで開催された鉄人寄席での講演をレポートします。お楽しみください。)

新お金管理術のキーポイント

3人目にお話させていただく竹川美奈子です。今日は、ビジネスパーソンのための新お金管理術というテーマでお話をしていきます。元々、オープンセミナーでは、ほとんどテーマが限られています。投資信託、積立投資、NISA、iDeCoの4つのテーマでしか仕事を頼まれないと言ってもいい状況でした。しかし、これは私の表の顔なんですね。



裏の顔があって、私は2000年にファイナンシャルプランナーの資格を取ったのですが、実はその頃からやっているのが、企業の従業員へのマネープラン研修です。各企業や企業年金基金などが共催する企業に行き、実際にお金について考えていただくセミナーをずっとやっています。もちろん、iDeCo やつみたて NISA、投資信託などの話をするのもすごく楽しいし、好きなのですが、一方で、1つのテーマだけを聞いても、なかなかわからない事ってあると思います。

どの商品が良いですかとか、iDeCoをどう使ったらよいですかというのも大事なのですが、実はもっと大事なのは、お金全体の事を少し離れて考えること、お金全体を見てどうしたら最適な状態になるのかを考えることだと思います。つまり金融資産全体をどうするか考えて運用していくとよいと



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ということです。もっと言うと、人生を通して入ってくるお金をどう管理し、どう増やしていくかという話になってくるかと思います。今日は少し広い話をということで、ビジネスパーソンのための新お金管理術というお話をしていきます。

新お金管理術のキーポイントは、お金の見える化です。①なぜ見える化が必要なのか、②自分の家計を見える化する、③公的保障と企業内保障を見える化する、という3つのテーマで話をしていきます。

どうして見える化が必要か

1つ目は「どうして見える化が必要なのですか」ということです。人生の一部として、仕事はキャリアプランなどを立てる方が多いですが、お金についても同様に自分自身でちゃんとマネジメントしていこう、という発想をこれからは持っていたきたいと思っています。

今日は皆さん、様々な属性の方がいらしています。それぞれに、これからいろいろなライフイベントがあると思います。そういう中で、お金をどういう風に管理していくのかという事が重要なのです。今の時代は、これからいくら必要ですよとか、いくら貯めないとダメですよ、保険はいくらくらい入らないとダメですよという「平均いくら」とか「一般的にいくら」というのが通用しない世の中になっています。

では、どのように考えたらよいのでしょうか。これからは「自分は」とか、「我が家では」という風に、個別に考えていかないといけない状況になっています。言われてみれば当たり前ののですが、週刊誌やマネー雑誌の影響で、他の人の意見に流されてしまいがちですが、そうではなく、「自分は」とか「我が家は」というのを、数値的にちゃんと検証する必要があるということです。

よく税制改定や増税の時にテレビで出てくる「標準世帯でいくら税金が上がりますよ」という時の「標準世帯」、つまり結婚していて夫婦と子供が2人、働いているのは1人といいますが、モデルの標準世帯って、全世帯の何%くらいだと思いますか。平成29年の家計調査では、なんと4.6%しかいないんですね。この4.6%をモデルケースとして数値を出しているの、多くの人是一般的に当てはまらないという事ですよね。だから自分の場合はどうですかということを数値的に検証して考えていかなければならなくなるんですね。

では、どうしたらよいのかという事です、私がよく申し上げているのが2つあります。1つ目は家計の見える化をしてくださいということです。個人も年次で決算した方がよいと思っているので、年に一度、バランスシートと損益計算書を作りましょうというお話をしています。2つ目は、公的保障と企業内保障を「見える化」したらどうでしょうかというお話です。聞き慣れない言葉かも知れない



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ので解説をしておきます。公的保障というのは、国の保障制度で、主に社会保険などになります。企業内保障というのは、勤務先や加入している健保から得られる保障だと考えてください。

ということで、これから皆さんがお金を考えるときには、三角形を思い浮かべていただいて、自分でお金を用意しようとする前に、国から受けられる保障ってどのくらいか、会社や勤務先から受けられるものはあるのかをまず考えてほしいんですね。それで、思い浮かべた三角形の下から公的保障と企業内保障を調べて積み上げて、足りない分を自分で用意すると考えてください。残念ながら自営業の方は企業内保障が無いという事になってしまいます。これから、お金の事を考えるときは、保険のことも老後のことも常に三角形を意識して、これから申し上げる事を調べて考えるようにしてください。

自分の家計を見える化する

次に自分の家計を見える化するということをお話します。個人も企業と同じように決算を出しましょうということです。具体的には1年に一度、バランスシートと損益計算書を作ってほしいと思っています。まずバランスシートですが、以前はエクセルを使ってグラフを作っていたりしていましたが、最近はマネーフォワードを使って連動させてバランスシートを作っています。定点観測ができないという点がありますので、ご自身で作るのもよいですし、アプリやサービスを使って簡易に出すこともできます。

次に損益計算書ですが、会社の場合の損益計算書は、売上があって、原価を引いて、粗利や販管費があって、経常利益や税金などの計算をし、最後に当期純利益が出るという段階を踏む必要がありますが、個人の場合はここまでやる必要はなくて、簡易版で結構ですので作っていただきたいと思います。

必要な項目は、手取りの収入と支出です。収入から支出を引いて、収支がプラス・マイナスでどれくらいなのか、これを確認できればよいです。実際に記入する際に源泉徴収票を見るとと思いますので、源泉徴収票の見方を解説します。支払金額という項目が会社から貰った金額になります。ここから手取金額を出すには、源泉徴収税額(所得税)と社会保険料等の金額を引きます。そこから更に住民税を引かないと手取り収入にはならないのですが、住民税は源泉徴収票には載っていないので、給与明細で調べてください。これで手取り収入が出ます。

給与明細を見ると他にもいろいろと引かれている方もいらっしゃると思いますが、ここでは、上に挙げた3つを引くようにしてください。お勤めの方は天引きされてしまうので、税金や社会保険料がいくら取られているか分からないというケースが多いのですが、ここで意識を持っていただけたらと思います。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

話はそれますが、課税所得がどれくらいかご存知でしょうか。なぜ聞くかというと、iDeCo に加入する際にどれくらいの掛け金であれば全額所得控除になって、いくら税制面でのメリットがありますよという話をしても課税所得が分からないと税率も分からないので、自分にとってのメリットがどれくらいあるのか分からないというケースが多いんですね。源泉徴収票では課税所得はそのまま記載がないので、これを求める計算が必要です。課税所得は、給与所得控除後金額なので、支払金額から、給与所得控除を引いた金額になります。

皆さん、ご自宅で計算してみて、所得の税率表と併せてみてください。中には住宅ローン控除などで所得が控除され、あまり税金を払っていないという方もいるかもしれません。このように自分で計算をして、全体的な仕組みを知っておくと、所得控除の金額を増やすと課税所得が減るんだなということも分かってくるので、この流れをおさえておいてください。

話を戻します。手取りの収入が分かったら、次は支出です。収入から支出を引いて、一年間の収支を出してください。不安そうにしている方もいますが、一度作ってみてください。ですが、これは作ることが目的ではなくて、合っているかどうかを知ることが重要なんです。手取の年収の出し方は、先ほどのやり方で出せますが、支出はどれくらい何に使っているかって、分からない方も多いと思います。ヒントとして、大型の固定費がどれくらいあるのか、住居関連費、保険代、自動車関連費、教育費があります。これに加えて、公共料金、通信費の様な基礎生活費があります。それと、変動費を確認していただき、最終的な収支を出していただきたいです。

それで、大事な点は、収支が合っているかという事なのですが、何を見たらこれが分かるでしょう。まずは通帳ですね。株式投資をされている方は、証券口座もこれに含まれます。相談を受けた方にとりあえず書いていただいて、その数字を見させていただくのですが、収支がプラス 250 万円とか書いている方がいて「すごい、こんなに残るんですか」と聞くと、「そんな訳ないじゃない。全然残らないわよ」と言われます。それは書いてある数字が間違えているということです。

たいていの場合は、支出の方が間違っています。8 割くらいの確率で合わないのですが、支出は忘れてしまうものも多いので、なかなか難しいのです。なので、書く順番を変えてください。最初は収入です。これは会社員の方も公務員の方も自営業の方も、計算すれば出てきます。次は、支出ではなく、収支を書いてください。通帳や投資の状況といった証拠が残っているので、これを見て、一年間にどれくらい貯められたのかを確認してください。例えば、手取が 500 万円だったとして、その年に 100 万円貯められていたら、差し引き 400 万円は使った事になります。

使った金額が分かったら、この内訳がどうなっているのかを探してみてください。その時にも漠然とするよりは、まず一年間で大きな支出を最初に書き出してみてください。車の買い替えや冠婚葬祭でまとまったお金が出て行ったなどですね。次に大型の固定費です。記録として残っている場合が



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

多く、それなりの金額になると思います。その後に基本生活費の電気、水道、ガスなどの光熱費や通信費と外食を除いた基本的な食事の費用などです。残りは変動費になります。これで大きく2つの事を知ることができます。1つは、我が家は一年間で「いくら残ったの？」または「いくら足りなかったの？」という点と、何かがあった時に、「いったいいくらあればとりあえず暮らしていけるの？」という点です。

現役時代は、入ってきたお金を、生活費やその他として使って、残りを投資や貯蓄に回していくことになりませんが、リタイアした後というのは、この流れが逆なんですね。それまでに溜めたお金の一部を使っていくことになるのですが、そうした時に毎月の支出の基準値が分からないと、もう少し減らした方が良いのかどうかも分からないことになってしまいますね。こういった基準値を知るためにも、現状を把握しておかないとダメです。把握した上で、お金が足りないのであれば、支出として何を減らしていくのかを考えていきたいです。固定費が高いのか、贅沢し過ぎで基礎生活費が高いのか、遊興費やレジャー費が高めなのかといった、要因を探ることができるようになります。

更にいうと、こうやって支出を積み上げていっても、どうしても合わない人もいらっしゃいます。つまり用途不明金が多い人なのですが、こういう方はお金が貯まらないですね。用途不明金が多い方は給与天引や自動振替で、強制的に貯蓄や投資に振り向けることを、多少無理をしても多めにやった方がよいと思います。そして残った中で生活するという癖をつけないと永遠にお金が貯まりません。

用途不明金が多い方は、家計簿を付けたり、レシートを写真に撮って家計簿アプリに保存したりすることはしていないでしょう。ですから、アナログなのですが、1ヶ月間でもよいので、家に箱を用意して、使ったレシートを家族全員が入れるようにしてみてください。レシートがない時は、メモを書いて箱に入れてみてください。ざっくりでも構わないので、本当の所、いくら使っちゃっているのかを把握するようにしてください。

ここまでが、入りと出が分かる損益計算書なのですが、もうひとつ作っていただきたいのがバランスシートです。こちらは、資産と負債を一覧表で書いていくことになるのですが、資産は金融資産と固定資産、負債の方は5年よりも短いものと長いもので、短期負債と長期負債とに分けていきます。総資産から総負債を引いたものが正味財産ということになります。

気をつけていただきたいのが、金融資産などは、買った時の値段ではなく、時価評価額で書いてください。負債も同様で、いくら借りたかではなく、今いくら借り入れが残っているかを書いてください。あくまで、現時点での資産と負債がどれくらいか、ということです。

具体的には、金融資産は預貯金と、投資をしている場合は、株式や投資信託があると思いますので、それを並べて時価評価額を書きます。この中に年金資産も組み入れてもよいと思います。該



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

当するのは、確定拠出年金や iDeCo です。自営業の方であれば、小規模企業共済などです。今すぐには引き出せないけど、将来的に年金として引き出せる資産がいくらか貯まっているのかを意識するためにも、ここに入れておくと良いかなと思います。ただし、すぐに使える資産ではないので、別枠にはしておきます。

固定資産ですが、今いくらで売れるかというのを厳密に知るのは難しいですけど、同じマンションの同じ間取りの部屋がいくらで売りに出ているとか、固定資産税の評価額がいくらになっているかなどを参考にしてください。負債は現時点の借入額を書いてください。普通のバランスシートはここで終わりなのですが、もうひとつ作っていただきたいのが、すぐに現金化できるお金がいくらかということで、金融資産から短期負債を引くと出すことができます。現金として用意できるのがどれくらいあるのかということなのですが、もしなにか万が一の出来事があった場合、固定資産がたくさんあるのは良いことなのですが、すぐに現金化するのは難しいですよ。なので、何かあったときにキャッシュ化できるのがどれくらいあるのかということなのですが、なぜこれを付けてほしいかというと、毎年毎年バランスシートを書いたときに、順調に金融資産が積み上がっていかないからなのです。

確実に金融資産が積み上がって行って、リタイヤまでに負債が圧縮されて行って、リタイヤに向けて健全なバランスシートになるようにしていくのが目標です。そのためにもこれをつけていただきたいのです。ちゃんと収支が黒字になることが大事なんですね。年間収支がプラスであれば、金融資産を積み上げていくことができますし、負債を減らすために繰り上げ返済に回すこともできます。こういった事を意識しながら書いていただきたいなと思っています。

これをやる意味はいくつかあります。1つ目の意味は、バランスシートは年に一度作っていただきたいのですが、これは定点観測をしたいからです。ちゃんと毎年、収支がプラスになって、バランスシートに金融資産が乗ってくると、正しく成長していくことができます。しかし悪いケースとして、収入は増えているけど支出も増えていて、年間の収支が変わっていないと、金融資産の増え方が大きにならないという事もあると思います。

毎年これをつけて並べて見える化してみると、問題点に気付き、意識が変わっていくと思うので、騙されたと思ってぜひ書いていただきたいと思います。これは現役世代で資産を積み上げていくときにもつけていただきたいですし、リタイヤしてからも、使える資産がどれくらいあるのかが分かるので、引き出し方や、引き出す金額や率を変える参考にもなると思います。なので、生涯を通じて年に一度決算をすることを意識していただくのは大事だと思います。

2つ目の意味は、バランスシートに金融資産を書いてくださいと言いましたが、できればもう少し詳しく書いたお金の管理シートができたらいなと思っています。お金の管理シートと言っても作るのは簡単です。商品の分類と、どの口座で買っているか、時価評価額がいくらかを書き加えるだけで



長期投資仲間通信「インベストライフ」

す。できれば資産クラスまで書いて、円グラフになっていると分かりやすいと思います。こうしておくと、バランスが分かるので、イメージと違っていたら直そうというようになるかもしれませんし、税制面のメリットを多く受けられる期待リターンの高い商品が、ちゃんと非課税口座で運用されているのかということ把握しやすくなると思います。

実際に企業型確定拠出年金のセミナーを従業員向けにやっていると、確定拠出年金は全額定期預金にされている方も多いのですが、講義が終わった後の質問で、「銀行から何とかファンドが良いと紹介されたんですけど、銀行で買った方がよいですか？」って聞かれることがあります。これを銀行で買うとしたら、確定拠出年金を全額定期預金にしておくのをやめるのが先ですよということになります。これがわかるようになるためにも、お金の管理シートを作るのをオススメします。項目については、カスタマイズしていただいて、メモ欄をつけるのも良いと思います。私は2003年位からお金の管理シートを書いていたのですが、当時はいろいろ凝っていたのですが、段々と面倒になって今の形に落ち着きました。長いこと投資をしていると失敗も多くて、長期で持とうと買っていたけど途中で売っちゃったとか、反省する点も沢山あって、それを繰り返さないようにするためにも書いておけるものがあるとよいと思います。

3つ目の意味は、リスク許容度を測るうえでの目安のひとつになるかだと思います。どういう事かという、投資する時にどこまで下がっても耐えられますかって、聞かれることがあると思いますが、そんな事言われてもわかりませんよね。人によっても違いますし。ドキドキするのは性格や投資経験によっても違うので、これよりも数値的にちゃんと考えた方が大事ななと思っています。

皆さん年間の損失が100万円って耐えられますか。200万円でも大丈夫ですか。50万円でも我慢できないですか。その基準ってどこにありますか。率だけで考えてみた場合、1,000万円の10%だと100万円ですし、100万円の10%なら10万円ですね。つまり投資金額によって金額が動くので、率だけでなく、金額も見ながらちゃんと考える。

また、家計の状況によっても変わると思います。預貯金を含む資産の状況によっても違いますし、年間収支でどれくらい貯められる力があるのかによっても変わると思います。例えば年間で100万円貯められる家庭であれば、100万円を失う事リスクは、金融資産全体で考えれば、インパクトはそれほど大きくないかな、と考えることができるかもしれません。

株式投資なので、リーマンショックのようなケースを考えると半分になる可能性はありますが、それを数字で把握した上で組み立てていくことは必要だと思います。今まで積み上がっている部分は、投資に回さずに、これからの分です。少しづつ株式投資してみるとか、いろいろなやり方ができると思います。感覚的に単に怖いからと言うのではなく、数字を見ながら考えることが重要だと思います。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

公的保障と企業内保障を見える化する

続いて、公的保障と企業内保障の話をしていきます。これは全部お話すると14時間くらいの内容になるので、今日はポイントと考え方だけお話しさせていただきます。前段でお話したように三角形をイメージしていきます。何度も言いますが、考える時は、公的保障、企業内保障、自分で用意するの順番です。なぜこの順番かというと、例えば、自分で死亡保障などを用意しようとした時に、遺族年金などの公的保障は考える方が多いのですが、勤務先で用意されている保障が充実しているのに、それを考慮していないという方がいるからなんです。

保険会社の営業員は、商品売りたいですし保障も沢山付けてほしいので積極的に聞いてはくれない可能性が高いと思いますので、ご自身で企業内保障があるのか、あるとしたらどれくらいあるのかについて調べてほしいです。意外にも恵まれている場合もあると思います。なので、公的保障と合わせて企業内保障も先に知っておきましょう。企業内保障が充実していれば、自分で用意する部分を減らすことができますので、そこで浮いたお金を貯蓄や投資、または自己投資に回していただければと思います。

お金を育てていくためには、お金を稼ぐことと、支出を抑えることと、投資して増やすの3つしかないと思います。このうちの支出を抑える部分については、やみくもに節約するよりはまず無駄を省くことが重要です。無駄というのは、必要な額以上に保障を付けていることや不要な保険に入っていることなどが含まれると思います。結構な金額になるので、用意されている保障はキチンと把握しておくのが大事だと思います。

そもそも保険というのは、どういう時に入るのでしょうか、というのを4事象にまとめてみました。Aは減多に起きないけど、起きた時の経済的ダメージが大きい。Bはよく起きるし経済的ダメージが大きい。Cは減多に起きないし起きたとしても経済的ダメージは小さい。Dはよく起こるが経済的ダメージは小さい。保険については、どこで使う物でしょうか。答えはAですね。家族がいて自分が死亡すると家族への経済インパクトが大きいという場合は、保険に入るべきです。独身の方は不要かもしれません。

話を三角形に戻しますが、公的年金は遺族年金になります。企業内保障は、死亡退職金や死亡弔意金とか遺児遺族育英年金などがそれにあたるかだと思います。これらを考慮した上で、足りない部分を自分で保険に入る形になるかだと思います。企業内保障は死亡退職金や死亡弔意金として用意されている会社は多いと思いますが、会社によって金額が全然違うので、ご自身で調べてください。先程あげた以外に、労働組合や厚生年金基金から出るケースもありますし、健保組合から出るケースもあります。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

会社に資料をもらい一覧化してみると、意外にも手厚い場合もあると思います。以前担当していた企業では、35歳で1,000万円くらい貰えるケースもありました。もうひとつの保障として、病気になったケースですが、考え方は基本的に一緒です。公的保障で、高額医療費制度や傷病手当金といった制度は受けられます。会社員や公務員であれば、高額療養費の付加給付や傷病手当の付加給付、傷病見舞金といったものがある場合があります。これらの制度が充実している会社も多くて、例えば高額療養費の付加制度で、上限金額がすごく抑えられるというケースもあります。私が実際に見た中で最も低かったのが、上限額15,000円でした。

バランスシートを書くとか何かあった場合の最低限の金額が分かるようになりますよね。ここが程度、大丈夫なくらいのお金があって、月額医療費の上限金額が2万円くらいだったら、医療保険に入る必要ってありますか？不要ですよね。いろいろ考えて不安になるよりも、現状で、公的な制度と勤務先の制度がどうなっているのかを調べてみるのが先ですよというお話になります。公的保障に傷病手当金というのがありますが、連続した3日間を含む4日以上仕事に就けなかった時、標準報酬日額の3分の2が、1年6ヶ月支給されるという制度です。自営業の方には無い制度なので、この辺りは会社員の方は恵まれていますね。

更に会社員の方は傷病手当金の付加給付が備わっている企業もあります。例としては、公的制度だけですと標準報酬日額の3分の2が支給されるどころ8割に増えるとか、期間が1年半なのが2年や3年に延びるといった制度があるケースもあります。それ以外にも休業した時の手当がどれくらい出るかなどあるので、会社で情報を集めて一覧にまとめておいてください。

保険を売ってらっしゃる会社の方と、「これからは公的保障だけでなく企業内保障も踏まえた上で保険を提案していかないといけませんね」という話をさせていただいて、その方の会社の企業内保障制度を調べていただきました。そうしたらとても充実していて、医療保険に入った方が良いですかねと聞いたら、その方は「自分なら入りませんね」とおっしゃっていました。そういう事もあるので、キチンと調べましょうということです。

リタイヤに向けた資産形成

最後にリタイヤに向けた資産形成というお話ですが、これも基本は一緒です。三角形を用意して、公的な年金制度があって、そのうえに企業の退職金制度として退職一時金や企業年金があるか、あるのであれば、確定拠出型か確定給付型なのかもキチンと調べておいてください。その上で自助努力としてご自身で作っていかなくてはならないですね。

毎年ねんきん定期便が、誕生日月に届くと思いますので、見ておいてください。50歳以上の方と50歳未満の方では見方が違うのでここだけ解説しておきます。50歳以上の方は、現在加入して



長期投資仲間通信「インベストライフ」

いる年金制度に60歳まで同じ条件で加入し続けたものとして計算された見込み額が載っています。

一方50歳未満の方は、これまでの加入実績が記載されています。今どのくらい加入をしていて現時点で貰える金額、ということになっているので、見込み額と言うよりは、現時点でのものになっています。一年経って加入月数が増えれば、それに応じて貰える金額が増えていくはずなので、確認してみてください。

では、公的年金の受取額を増やすにはどうしたらよいかという話なのですが、ひとつは、働く期間を伸ばすことです。60歳以降も厚生年金に加入するような働き方をすれば、加入月数が増えるので、その後に貰える金額は増えます。あと、国民年金の方であれば、60歳になって加入年数が40年に満たない場合は、65歳まで任意で、40年に達するまで加入する事ができるので、そういうことをして加入実績を伸ばすと金額は増えます。

もうひとつは、受給年齢の繰り下げ、つまり、受け取る年齢を後ろにずらすという方法もあります。例えば老齢基礎年金の部分は、基本的に65歳から貰うことになっていますが、これは、60歳から70歳までのいつから貰うようにするか変更することができます。早めに貰うようにすると、1ヶ月毎に0.5%ずつ貰える額が減ります。逆に65歳から遅らせると、1ヶ月毎に0.7%ずつ貰える額が増えます。

なので、仮に基礎年金を40年の満額加入をすると78万円になるのですが、70歳から貰うようにすると、42%増えて111万円になります。なので、65歳以上も働くのであれば、受給開始を繰り下げるのも選択肢の一つだと思います。ちなみに、繰り下げの場合は、基礎年金の部分と厚生年金の部分を別々に繰り下げることができるので、ご自身の働き方含めて、ご夫婦で考えてみると良いと思います。

公的年金って結構馬鹿にされるのですが、一生貰えるというのは大きいですよ。あくまで公的年金保険なので、長生きに備える保険としての機能が大きいのです。死ぬまで貰える保険は他には無いので、増やすのであればここを増やす方がよいと思います。もし、先に貰えるものや働けるという事であれば、一生貰えるものは、少しでも後ろにずらして貰える金額を上げるというものも選択肢の一つだと思います。あとは、勤務先の退職給付制度がどうなっているのかも、早めに確認してください。ポイントとしては、受け取れるものが一時金なのか企業年金なのか、それぞれいつ、どのように、いくら貰えるのかを、50歳過ぎたあたりからキチンと調べておいた方が良いでしょう。

最後に一点だけ申し上げますと、最近は転職されたり独立をしたりという人が増えてきています。その場合、勤めていた会社で企業年金に入っていたけど、短い期間で脱退する形になる事もある



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

んですね。そうすると、企業年金連合会に移管されている場合があります。通常、ハガキが届くのですが、引っ越しや結婚で名字が変わっていたりすると届かなかったなんてケースが結構あります。これはもったいないので、貰い忘れがないようにしてください。

企業年金記録確認サービスというホームページがあるので、もしかしたら加入していたものがあるかもしれないと思う方は確認をしてください。公的年金はご自身で申請しないと貰えないものが多いんですね。忘れていたとか、どうせ大した額じゃないからという理由で、企業年金を貰い忘れていたものが、企業年金連合会に入ってきて大量に積み上がっているようです。という事なので、ご自身で掛けたお金は、取りっぱぐれがないようにしてくださいね。

繰り返しになりますが、50歳くらいになったら、公的な制度で貰えるもの、企業から貰えるもの、そして自分でやっているものを一覧化してまとめてみてください。まとめとしては、資産形成をするには、真面目に本業で稼ぐ。そして細くでもよいのでなるべく長く働く。そして無駄を省いて、収入のうちの1割でも2割でも、長期的に継続して貯蓄や投資に回す。そしてお金周りの事をちゃんと調べておくことも重要だと思いますのでやってください。そして、家計の状況を正しく把握するために定点観測をしてください。このために作るのが損益計算書とバランスシートですが、これを一度作るだけでも、お金の事が画期的に改善すると思います。松下幸之助さんも、「人生は経営である」とおっしゃっていました。私も同じように思います。最後に、今回はNISAやiDeCoに関する本を出しています。今回お話できなかったのも、ぜひ読んでいただければと思います。本日はどうもありがとうございました。